資料２

* 前回の改定はＨ３１年３月
* 令和５年度組織改正で健康課へ
* 今回の計画の重点をどうするか

**これまでの議論の振り返り**

**事務局での検討**

* ＳＮＳ相談事業
* 居場所支援事業「たきあいあい」
* 児童虐待との連携
* 介護支援者との連携
* 平和と人権課との連携
* 福祉政策課「重層的支援」の連携
* 産業振興課「就職氷河期向け支援事業」連携

**委員会での意見**

* 40～50代働き盛り男性
* 40～50代無職女性
* ＬＧＢＴＱ
* 遺族者支援
* 自殺未遂者
* 女性、若者への支援

**議会で取り上げられたこと**

* 未遂者支援
* 遺族支援
* 小中自殺予防授業
* 多重債務問題
* 地域への啓発
* 誰かとつながる仕組みづくり

**令和元年～令和４年の推進委員会の議事録より抜粋した意見**

**市への意見や要望など**

* 横の連携を強化
* 事例検討会は積極的に
* 相談会などはターゲットに届くような戦略を考える
* 啓発事業はやって終わりではなく、そのあとの受け取り方を確認しフォロー
* ゲートキーパーや相談に応じる人達にも心理をつかめるような教育や訓練が必要
* 他市の成功事例を学んで生かすこと
* 計画を作った時に、連携が大事だと確認しあったことを思い出す。
* ＬＧＢＴＱ
* ＳＮＳ

**分析関連**

* 自殺者の分析をしないと厳密な対策はできない（家族構成や、年齢、地域など）
* 日野市民の市民性、地域性は何かを分析。
* 人間の心理に何があるのかしっかり見極めることが大きな課題。そこに生きる人たちの価値観
* 今まで自殺者は孤立しているといわれてきたが、同居の家族がいても孤立状態であればそれを支援する何かを考えないと

**心理関連**

* 女性は何かあったときにくだらない話をできる相手がいるかが重要
* 苦しいといえない、言わせないような雰囲気があり、それが日本人の気質。「たすけてくれと」いう雰囲気をどうつくるか
* 低い自己肯定感。死にたいよりも、生きるのをやめたい
* プライドが傷つけられ、認められなくなり、保てなくなると死を選ぶ
* 働いている人のケアがすごく大事。追い詰められた時に働きすぎてしまう。

**学校関連**

* 中高年の男性の自殺は、その子供が小中高ぐらいの年。子供に与える影響を考える。学校は意識して接する。
* 授業で「命は大切に。だから自殺なんて命を粗末にしないように」みたいに言うと、「自分の親は悪いことをしたのか」と思い余計話せなくなり孤立してしまう。学校と情報を共有
* 教職員が参加できるような時間帯設定と時期にしてもらうと、研修など受けやすい。
* ＰＴＡと連携するとうまくいくかも

**その他**

* かかってくる電話を待つだけではなく、こちらから危ないと思う人たちへかける
* 言葉に頼るのではなく、行動観察が必要。ちょっとした表情の変化とか、そういう力を養うことが必要
* 発想を変えないとうまくいかない